広報 なりた
市民を大切にする市政

成田歴史玉手箱

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

御神体を載せた神輿が鳥居河岸を通る。昔は印旛沼に入水していたが、今は岸辺で引き返している。

台方麻賀多神社の獅子舞―成田市指定無形民俗文化財

300年の伝統を受け継ぐ、農に生きる人々のまつり

台方の麻賀多神社は、印旛郡で唯一の式内社（しきないしゃ）（平安時代の書物『延喜式』に名前が載っている神社）で、4世紀後半に印波国造伊都許利命（いんばのくにのみやつこいつこりのみこと）によって創建されたと伝えられる格式のある神社です。この麻賀多神社で毎年7月31日の例大祭に獅子舞が奉納されます。

この祭りは豊作祈願と悪魔払いの祭りとして古くから伝えられ、現在この神社とともに暮らしてきた台方と下方両地区が1年交代で祭りを運営しています。ことしの当番は台方で、「世話人」を中心とする若衆が祭りの段取りを担当しています。

獅子舞がいつ頃から始まったのかは不明です。言い伝えによると、今から360年ほど前の寛永年間に伊勢の大神楽が、この地に伝えられたとされています。また。享保8年（1723）の古文書には太鼓を新調したことが記載されていることから、少なくとも300年以上の歴史をもっていることが分かります。

祭りの当日、獅子舞は麻賀多神社と鳥居河岸の2カ所で奉納されます。最初に雄獅子、次に雌獅子が登場します。獅子頭が一つなので、舞い手の衣装によって雄か雌かを見分けるのが特徴です。雄獅子は紺の浴衣にステテコと黒足袋、雌獅子は女物の着物と帯を締め白足袋を履きます。舞は4部構成で、第1部は天地四方をはらい清め神様を迎え、第2部は汚れた悪魔を払い人々の幸せを祈願し、第3部は神様の心を案じ奉納します。そして第4部は神様と一緒になって人々も楽しむという構成になっています。雄獅子はより力強く、雌獅子はより美しく舞うことがポイントです。

女装し華麗に舞う雌獅子。獅子の後ろで補助をする人は、「アトッカブリ」と呼ばれ、前回獅子舞をした人が行っている。

勇壮な雄獅子の舞

獅子の舞手は、麻賀多神社の氏子の長男だけに限られています。毎年7月1日の夜に、それぞれ2人ずつ選ばれます。年ごとに交代するのが習わしで、この舞を舞うと一人前と認められてきたそうです。舞手不足に頭を悩まされながらも、300年もの歴史と伝統のある獅子舞を継承するために、毎晩猛練習が行われています。晴れの舞台で獅子舞を披露する人、裏方に徹し祭りを成功させようとする世話人のみなさんに拍手を送ろうではありませんか。

編集後記

夏のスタミナ源として知られるうなぎ。「土用の丑（うし）の日」と「うなぎ」を結び付けたのは、幕末の万能学者・平賀源内といわれています。昔、夏場にうなぎが売れない近所のうなぎ屋に頼まれ、「本日土用の丑の日」と書いた張り紙を出したところ大評判となり、庶民の間で土用の丑の日にうなぎを食べるという習慣が広まったとか。うなぎは、ビタミン群がとても豊富で疲労倦怠の回復はもちろん成人病予防などにも効果があるといわれています。7月20日は、土用の丑の日。印旛沼の天然うなぎはなかなか食べられませんが、養殖のうなぎを食べて猛暑を乗り切ることにしました。

広報なりたは再生紙を使用しています。